

認知症予防対策の充実を

質問

認知症の非薬物療法の一つとして、回想法が各地で取り組まれている。

回想法とは、昔の用具などを目にして思い出や体験を語り合うことで脳を活性化させる心理療法である。最近のことは忘れても、昔のことは覚えていたということ、効果が期待されている。

北名古屋市では回想法キットの貸出しをしているが、愛西市でも取り組んではどうか。

福祉部長

今後、機会があれば取り入



榎本雅夫 議員

れたいと考ええている。また、回想法キットも、一度参考にしながら研究していきたい。

質問

聞こえは「コミュニケーションの基本であり、難聴が認知症を引き起こす原因の一つである。閉じこもりや、認知症へと進展させないためには、定期的な健診が有効である。本市でも特定健診に聴力検査や、簡易チェックを活用して聴覚チェックをしてはどうか。

市民生活部長

特定健診に聴覚検査を導入する予定は現在考えていない。

福祉部長

簡易聴覚チェックによる検査については、老人性難聴と認知症の因果関係も見極め、介護予防にどう生かしていけるか、研究していきたい。

質問

介護予防の取り組みは。また、認知症サポーター養成講座の状況は。

福祉部長

愛西お出かけサロン、はつらつ体操クラブなど実施しており、コミュニケーションを深めてもらい、認知症予防などにもつなげていきたい。本年度、認知症の相談先など紹介できるマップを作りたい。

サポーター養成講座は平成20年度より取り組んでおり、現在までに914人のサポーターを養成している。今後も登録者を増やしていきたい。

高齢者肺炎球菌ワクチンの助成を

質問

肺炎を起こす原因の一つが肺炎球菌である。特に免疫力が低下している高齢者は肺炎にかかりやすく、重症化するので予防が重要である。ワクチン接種により5年程度効果があるとされているが、全額自己負担である。一部助成している市町もあるので、愛西市でも70歳以上を対象に、高齢者肺炎球菌ワクチン接種の助成を実施してはどうか。

市民生活部長

70歳以上の対象人数は1万48人。県内市町村では既に実施している市もある。助成している最高額は大府市の8千円。少ないのは田原市の2千円。今後、前向きな方向で勉強していきたい、他市町村の動きにも注視していきたい。

市長

よく勉強していきたい。

